

令和6年度 東御市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI実績

「◎」…順調(実績が目標値の100%以上)
 「△」…やや遅れている(実績が目標値の74%~50%)
 「—」…現段階では実績が表せないもの

「○」…概ね順調(実績が目標値の99%~75%)
 「×」…遅れている(実績が目標値の49%以下)

基本目標	基本施策等	番号	KPI	基準値	最終目標値	担当課	年度別目標／実績【上段:目標、下段:実績】					5か年の最終進捗状況		
							2020	2021	2022	2023	2024	進捗率	進捗状況	担当課所見(2020~2025年) ・進捗が遅れた理由 ・今後の展開
基本目標I 「どうみ」において安定した雇用を創出する	基本目標I 「どうみ」において安定した雇用を創出する	1	市内就業者数 【国勢調査より】 基準:15,317人(2015年) 目標:15,000人(2025年)	15,317人	15,000人	商工観光課	15,254人 —	15,190人 14,611人	15,127人 14,611人	15,063人 14,611人	15,000人 14,611人	97.4%	○	・全体的な人口の自然減に加えて、若年層の市外への流出が顕著。 ・小規模IT企業やサテライトオフィスの誘致や観光雇用の創出等、産業の多様化を推進する。
		2	市内20~30歳代の就業割合 【国勢調査から算出】 基準:30.06%(2015年) 目標:現状値維持(2025年)	30.06%	30.06%	商工観光課	30.06% —	30.06% 27.26%	30.06% 27.30%	30.06% 27.30%	30.06% 27.30%	90.8%	○	・進学や就職のタイミングで若年層の人口流出が発生。 ・上田職業安定協会や上田公共職業安定所と連携を強化し、地元企業紹介の場を広げると共に、若者を対象にした就職に関するサポートを充実させることで、地元企業への就職に繋げる。
		3	製造品出荷額等に対する粗付加価値額 【工業統計調査より】 基準:506億9,505万円(2018年) 目標:512億(2024年)	506億9505万円	512億0000万円	商工観光課	507億9604万円 365億1807万円	508億9703万円 392億0458万円	509億9802万円 365億0101万円	510億9901万円 365億0101万円	512億0000万円 365億0101万円	71.3%	△	・不安定な世界情勢の影響や、円安、賃金上昇等による原材料費や仕入単価が高騰している。 ・先端設備の導入促進を行うことで、生産プロセスの効率性や生産品の品質を向上させ、付加価値を高める。
		4	製造業従事者数 【工業統計調査より】 基準:3,466人(2017年) 目標:現状値維持(2024年)	3,466人	3,466人	商工観光課	3,466人 3,313人	3,466人 3,442人	3,466人 3,008人	3,466人 3,008人	3,466人 3,008人	86.8%	○	・従業員数が多い、一部企業の経営統合の影響が大きい。 ・職業訓練校でおこなう、実践的な教育プログラムやインターフィップ等の情報提供を行うことで、製造業への就業を促進する。
		5	20~39歳の社会増減数 【東御市人口ビジョン参考】 基準:+9人(2018年) 目標:+9人	9人	9人	企画振興課	9人 12人	9人 △ 7人	9人 △ 49人	9人 △ 29人	9人 △ 41人	-455.6%	×	コロナの5類移行以後、東京一極集中が再加速し、コロナ禍前への水準に戻っているため、社会増減数が減少していると考えられる。移住相談や就業支援など複合的な支援で、20~30歳代の移住定住を促進し、地域の人材不足の克服を目指す。
基本目標II 「働く場の創出と拡大」	基本目標II 「働く場の創出と拡大」	1	起業件数 (県・市制度資金活用件数／累計) 【東御市商工観光課集計より】 基準:-件(2019年) 目標:毎年+5件、累計25件(2024年)	0件	25件	商工観光課	5件 6件	10件 15件	15件 40件	20件 51件	25件 63件	252.0%	◎	
		2	ビジネスサポート窓口での支援件数 (累計) 【東御市商工観光課集計より】 基準:0件(2019年) 目標:毎年+12件、累計60件(2024年)	0件	60件	商工観光課	12件 12件	24件 24件	36件 29件	48件 41件	60件 44件	73.3%	△	・事業内容の周知不足。 ・周知の再徹底と、関係機関との連携強化を行う。
		3	官民連携により新たに創出された事業数 (累計) 【東御市企画振興課集計】 0事業(2019年)⇒3事業(2024年) 累計3事業(2024年)	0事業	3事業	企画振興課	0事業 0事業	1事業 1事業	1事業 1事業	2事業 2事業	3事業 3事業	100.0%	◎	令和6年度に長野大学と包括連携協定を締結し、連携事業の試行を開始した。令和7年度からは正式事業とし、より連携を強化していく。

基本目標	基本施策等	番号	KPI	基準値	最終目標値	担当課	年度別目標／実績【上段:目標、下段:実績】					5か年の最終進捗状況		
							2020	2021	2022	2023	2024	進捗率	進捗状況	担当課所見(2020~2025年) ・進捗が遅れた理由 ・今後の展開
地域ブランドの振興と関連産業の育成	4	市内事業者電子商取引(EC)実施事業所数(ECセミナーを通じて)(累計) 【東御市企画振興課集計】 基準:0事業所(2019年) 目標:毎年+1事業 累計5事業所(2024年)	0 事業	5 事業	企画振興課	1 事業	2 事業	3 事業	4 事業	5 事業	380.0%	◎	近年、国内で認定可能な国際水準GAPの種類が増え、グローバルGAP以外の選択肢の幅が広がったことが、経営判断を鈍らせる一因となっている。GAPは、農業分野において、SDGsの目標と目的が合致している。今後は、国が新たに策定した「みどりの食料システム戦略」の支援事業を活用しながら、現状に合わせて目標設定を定め、継続して取組みたい。	
						11 事業	17 事業	19 事業	19 事業	19 事業				
	1	GAP認定取得経営体数(累計) 【東御市農業振興計画】 基準:2経営体(2017年) 目標:5経営体(2024年) 累計5経営体(2024年)	2 経営体	5 経営体	農林課	2 経営体	2 経営体	3 経営体	4 経営体	5 経営体	60.0%	△	生産量や出荷額については近年の増減傾向や生産者への聞き取りから設定する。一方で、御堂ワイン用ぶどう園地の収穫量安定増加や低価格帯ワインの増加等も考慮する必要がある。	
	2	市内ワイナリー出荷額 【東御市農林課集計】 基準:210,000千円(2019年) 目標:245,000千円(2024年)	210,000 千円	245,000 千円	農林課	217,000 千円	224,000 千円	231,000 千円	238,000 千円	245,000 千円				
基本目標Ⅱ 数値目標	3	市内ワイン生産本数 【東御市農林課集計】 基準:133,000本(2019年) 目標:150,000本(2024年)	133,000 本	150,000 本	農林課	136,400 本	139,800 本	143,200 本	146,600 本	150,000 本	100.8%	◎	中間事業者と連携し、新たな返礼品の発掘や定期便・頒布会の拡充、農産物の先行予約の開始などにより、目標を達成することができた。今後も引き続き新たな返礼品の発掘により目標達成に努める。	
	1	滞在人口率 【RESAS】 基準:0.94(2019年1月) 目標:1.07(2024年)	0.94	1.07	商工観光課	0.97	0.99	1.02	1.04	1.07				
	2	社会増減数 【東御市人口ビジョン】 基準:△34人(2018年) 目標:75人(2024年)	△ 34人	75	企画振興課	△ 12人	10 人	31 人	53 人	75 人	-45.3%	×	コロナの5類移行以後、東京一極集中が再加速し、コロナ禍前への水準に戻っているため、社会増減数が減少していると考えられる。引き続き移住体験施設等を効果的に活用し、移住希望者の増加を目指す。	
	3	ふるさと納税者数 【東御市企画振興課集計】 基準:8,549人(件)(2018年) 目標:23,000人(件)(2024年)	8,549 人	23,000 人	企画振興課	11,439 人	14,329 人	17,220 人	20,110 人	23,000 人				
	1	観光消費額(暦年) 【(一社)信州とうみ観光協会(観光マーケティング調査)】 基準:46.2億円(2017年) 目標:50.5億円(2024年)	46.2 億円	50.5 億円	商工観光課	47.1 億円	47.9 億円	48.8 億円	49.6 億円	50.5 億円	106.3%	◎	観光入込客数は見込みを下回ったが、一人当たりの消費額(客単価)が昨今の物価高などの影響により当初の見込みより増となつたため、観光消費額は目標達成となつた。	

基本目標	基本施策等	番号	KPI	基準値	最終目標値	担当課	年度別目標／実績【上段:目標、下段:実績】					5か年の最終進捗状況		
							2020	2021	2022	2023	2024	進捗率	進捗状況	担当課所見(2020~2025年)
基本目標II「どうみ」への新しいひとの流れをつくる	観光振興による交流人口の創出・拡大	2	観光入込客数(暦年:湯の丸高原、海野宿、芸術むら公園) 【東御市商工観光課(長野県観光地利用者調査)】 基準:886,200人(2018年) 目標:940,500人(2024年)	886,200 人	940,500 人	商工観光課	897,060 人 400,440 人	907,920 人 397,000 人	918,780 人 525,120 人	929,640 人 618,170 人	940,500 人 620,700 人	66.0%	△	コロナ禍で大幅に減少し、コロナ禍が明けて徐々に回復傾向にあるものの、目標値までの回復には至らなかった。引き続き市外向けの情報発信を強化し、来訪者の増加につなげる。
		3	体験型プログラム利用者数 【東御市商工観光課集計】 基準:51人(2018年) 目標:2,400人(2024年)	51 人	2,400 人	商工観光課	521 人 53 人	991 人 572 人	1,460 人 1,380 人	1,930 人 2,157 人	2,400 人 3,697 人	154.0%	◎	観光協会ホームページのグリーンツーリズム特設サイトの充実や、デマンドバスを利用したスノーシュートレッキングの企画等ソフト面での取り組みを強化した。今後は、引き続きプログラムの磨き上げを図るほか、宿泊事業者のネットワーク強化の支援等により、ツーリズム展開の活性化を図る。
		4	ワイン&ビアミュージアム来館者数 【東御市6次産業化推進室集計】 基準:7,539人(2021年) 目標:10,500人(2024年)	7,539 人	10,500 人	農林課	- -	- -	8,526 人 9,280 人	9,513 人 8,078 人	10,500 人 9,002 人	85.7%	○	地域おこし協力隊員が常駐し、来館者に対して入門的な情報やワインを提供するという開館当初の役割は一定程度成果をあげており、今後は生産者と消費者の双方に負担の少ない形でより効率的に情報を提供し、消費者を生産現場へと誘うための拠点として、ミュージアム機能の強化を図る。
	地域資源を活用した個人や企業の関係人口の創出・拡大	1	リピーター率(暦年) 【(一社)信州どうみ観光協会(観光マーケティング調査)】 基準:46.7%(2017年) 目標:50.2%(2024年)	46.7%	50.2%	商工観光課	47.4% 70.9%	48.1% 66.9%	48.8% 68.2%	49.5% 78.1%	50.2% 46.7%	93.0%	○	地域ボランティアガイドの養成の強化など地域ホスピタリティ向上のための取り組みを充実させることで、観光客の満足度を高め、リピーター率の向上につなげていく。
		2	湯の丸高原スポーツ交流施設利用者の市内宿泊者数 【東御市文化スポーツ振興課集計】 基準:5,200泊(2018年) 目標:16,000泊(2024年) R3.3回まち審で目標を毎年16,000泊にする。	5,200 泊	16,000 泊	文化スポーツ振興課	7,360 泊 10,179 泊	16,000 泊 11,956 泊	16,000 泊 12,107 泊	16,000 泊 15,035 泊	16,000 泊 13,137 泊	82.1%	○	工事期間はあったものの、利用者は順調に増加している。日本陸上競技連盟より強化拠点「JA AF認定陸上トレーニングセンター」の認定されることとなり、今後益々の利用者増が期待できる。
		3	東御市公式ファンクラブサイト『どうみにてい』会員数 【東御市企画振興課集計】 基準:0人(2019年) 目標:1,500人(2024年)	0 人	1,500 人	企画振興課	- -	- -	500 人 530 人	1,000 人 770 人	1,500 人 1,057 人	70.5%	△	コンテンツの充実およびLINEシステムを通じたプッシュ型の通知を行うことで、更なる会員増加に努める。
	東御市への移住・定住の促進	1	県外からの転入者数(累計)(暦年) 【東御市市民課集計】 基準:379人(2018年) 目標:2,200人(2024年) 毎年+440人 累計2,200人(2024年)	379 人	2,200 人	企画振興課	440 人 345 人	880 人 648 人	1,320 人 1,064 人	1,760 人 1,517 人	2,200 人 1,942 人	88.3%	○	
		2	空き家バンクの契約件数(累計) 【東御市企画振興課集計】 13件(2018年)⇒65件(2024年) 毎年+13件 累計65件(2024年)	13 件	65 件	企画振興課	13 件 11 件	26 件 31 件	39 件 33 件	52 件 46 件	65 件 70 件	107.7%	◎	空き家相談会の実施、空き家所有者への継続的なサポートなどにより登録物件が増加したことにより、契約件数も目標を達成した。

基本目標	基本施策等	番号	KPI	基準値	最終目標値	担当課	年度別目標／実績【上段:目標、下段:実績】					5か年の最終進捗状況		
							2020	2021	2022	2023	2024	進捗率	進捗状況	担当課所見(2020~2025年)
基本目標Ⅲ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	基本目標Ⅲ 数値目標	1	合計特殊出生率 【東御市人口ビジョン】 基準:1.69(2018年) 目標:1.71(2024年)	1.69	1.71	健康推進課	1.69	1.70	1.70	1.71	1.71	80.7%	○	・適齢女性人口の減少 2024年度の妊娠届出数は128件と前年比△33件で過去最小 ・不妊・不育症治療費補助を継続し、出産を望む夫婦を支援する
		2	18歳未満の子どもを育てている世帯数 【東御市市民課集計】 基準:2,663世帯(2019年) 目標:現状値以上(2024年)	2,663 世帯	2,663 世帯	子ども家庭支援課	2,663 世帯	2,663 世帯	2,663 世帯	2,663 世帯	2,663 世帯	93.3%	○	企画振興課と連携し、子育て世代をターゲットにした移住促進施策を実施する。
	出会いの場の創出	1	婚姻件数 【東御市の統計】 基準:122件(2018年) 目標:125件(2024年)	122 件	125 件	子ども家庭支援課	123 件	123 件	124 件	124 件	125 件	60.8%	△	結婚新生活支援事業の更なる周知を行う。
		2	子育て支援センター事業の利用者数(延べ人数) 【東御市子育て支援課集計】 基準:17,857人(2018年) 目標:18,150人(2024年)	17,857 人	18,150 人	子ども家庭支援課	17,916 人	17,974 人	18,033 人	18,091 人	18,150 人	60.0%	△	3歳未満で保育園に入園する子が増加しており、利用者減の要因となっている。また多くの方に利用してもらうため、「支援センターデビューの日」、「1歳の誕生会」等行事を実施し利用しやすい体制を整備する。
	出産・子育て支援の充実	2	25~44歳の女性の就業率 【国勢調査・RESAS】 基準:73.8%(2015年) 目標:78%(2024年)	73.8%	78.0%	子ども家庭支援課	74.6%	75.5%	76.3%	77.2%	78.0%	88.1%	-	就業率は5年ごとの国勢調査数値から算出しているため、直近数値が2020年(令和2年)となっており推定は困難である。なお、2024年は推計値である。
		3	「女性のための就労相談会」相談者数 【東御市子育て支援課集計】 基準:23人(2018年) 目標:40人(2024年)	23 人	40 人	子ども家庭支援課	26 人	30 人	33 人	37 人	40 人	15.0%	×	相談から就労に結びついたケースがあった。仕事と子育ての両立支援の観点から、保護者の様々な悩みを受け止め必要な窓口へつなげるとともに、就労や社会参加のきっかけづくりの場として相談会を継続する。
		4	妊産婦相談訪問実施率 【東御市健康づくり計画 後期計画】 基準:93%(2018年) 目標:95%以上(2024年)	93.0%	95.0%	健康推進課	93.4%	93.8%	94.2%	94.6%	95.0%	100.6%	◎	
		5	子育てについて相談できる友人や場が無いと感じる親の割合(乳児家庭全戸訪問時間診) 【東御市健康づくり計画 後期計画】 基準:4.9%(2018年) 目標:4.5%未満(2024年)	4.9%	4.5%	健康推進課	4.8%	4.7%	4.7%	4.6%	4.5%	750.0%	◎	

基本目標	基本施策等	番号	KPI	基準値	最終目標値	担当課	年度別目標／実績【上段:目標、下段:実績】					5か年の最終進捗状況		
							2020	2021	2022	2023	2024	進捗率	進捗状況	担当課所見(2020~2025年)
基本目標IV 時代にあつた地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域の連携を図る	基本目標IV 数値目標	1	東御市に対する評価(住みよさランキング) 【東洋経済 都市データパック】 基準:223位(2019年) 目標:223位以上(2024年)	223	223	企画振興課	223位 413位	223位 327位	223位 411位	223位 331位	223位 306位	72.9%	△	初年度よりは上昇したが、目標には達成していない。住みよさランキングの算出基準の要素は単年で大きく変えることができるものではないことから、継続して各課が住民サービス向上のための施策を推進していく。
		2	東御市は住みよいと感じる市民の割合 【東御市まちづくりアンケート】 基準:80.0%(2018年) 目標:85%(2024年)	80.0%	85.0%	企画振興課	81.0% - -	82.0% 87.4%	83.0% 87.4%	84.0% 87.4%	85.0% 87.4%	102.8%	◎	
		3	地域づくり協議会が主催する地域づくり活動への参加者数 【東御市地域づくり支援室集計】 基準:445人(2018年) 目標:670人(2024年)	445人	670人	地域づくり支援課	490人 213人	535人 307人	580人 453人	625人 613人	670人 714人	106.6%	◎	
	新たな視点で取り組む、安心して暮らせる地域づくり	1	地域づくり組織に占める若者世代(20~40代)の割合 【東御市地域づくり支援室集計】 基準:30%(2018年) 目標:50%(2024年)	30.0%	50.0%	地域づくり支援課	34.0% 26.3%	38.0% 28.0%	42.0% 28.6%	46.0% 29.8%	50.0% 15.2%	30.4%	×	定年延長による担い手の不足や、若者世代の積極的な組織参画が促されるよう、多様な主体による地域づくり活動ができる支援を行う。
		2	公共交通乗車人員総数(鉄道・バス・デマンド) 【東御市商工観光課集計】 基準:1,839人／日(2018年度) 目標:現状値維持	1,839人／日	1,839人／日	商工観光課	1,839人／日 1,313人／日	1,839人／日 1,442人／日	1,839人／日 1,522人／日	1,839人／日 1,500人／日	1,839人／日 1,528人／日	83.1%	○	今後、利用実績やデマンド車両稼働率等を踏まえ、利用ニーズにあわせてシステムや運行体制の見直し、利用促進事業(周知広報)等を実施し、利用者の獲得を目指す。
	地域で活躍する人財の育成・確保	1	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童生徒の割合 【全国学力・学習状況調査】 基準:小学生52.9% 中学生38.9%(2018年) 目標:全国平均値以上	52.9%	全国平均値以上(小学生)	地域づくり支援課	未実施	52.40%	51.30%	76.80%	85.50%	100.1%	◎	
		2	オフサイトミーティングを活用した事業実施数(累計) 【東御市企画振興課集計】 基準:0件(2019年) 目標:4件(2024年) 累計4件(2024年)	38.9%	全国平均値以上(中学生)		未実施	59.60%	59.20%	86.70%	85.60%	104.1%	◎	
		3	オフサイトミーティングを活用した事業実施数(累計) 【東御市企画振興課集計】 基準:0件(2019年) 目標:4件(2024年) 累計4件(2024年)	0件	4件	企画振興課	1件 0件	1件 0件	2件 2件	3件 3件	4件 3件	75.0%	○	

【資料1】

基本目標	基本施策等	番号	KPI	基準値	最終目標値	担当課	年度別目標／実績【上段:目標、下段:実績】					5か年の最終進捗状況		
							2020	2021	2022	2023	2024	進捗率	進捗状況	担当課所見(2020~2025年)
広域連携によるまち・ひと・しごとの創生	1	千曲川ワインバレー特区区域内収穫量 【千曲川ワインバレー特区連絡協議会集計】 基準:259トン(2018年) 目標:389トン(2024年)	259トン	389トン	農林課	285 トン	311 トン	337 トン	363 トン	389 トン	389 トン	59.9%	△	植樹面積や収穫面積は増加する中で収穫量が減少してお り、主に気候変動や病害等の外的要因によるものと考えられる。広域で連携している強みを活かし、千曲川ワインバレー特区で協力して注意喚起、病害対策等に取り組むために密な情報共有を検討する。
	2					336 トン	237 トン	134 トン	289 トン	233 トン	233 トン	148.3%	◎	高地トレーニングの有用性が浸透してきており、利用者は順調に増加している。日本陸上競技連盟より強化拠点「JAAF認定陸上トレーニングセ ンター」の認定されることとなり、今後益々の利用者増が期待できる。
まち・ひと・しごとの創生	3	高齢者社会における地域活性化策 【高齢者社会における地域活性化策】 基準:100人(2018年) 目標:150人(2024年)	100人	150人	文化課	96 団体	102 团体	108 团体	114 团体	120 团体	120 团体	100.0%	○	高齢者社会における地域活性化策が実現され、目標通りに達成された。今後も継続的な取り組みが求められる。
	4					110 团体	163 团体	173 团体	209 团体	178 团体	178 团体	100.0%	○	高齢者社会における地域活性化策が実現され、目標通りに達成された。今後も継続的な取り組みが求められる。